

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2794200358		
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト茨木駅前		
所在地	大阪府茨木市駅前1丁目9-23		
自己評価作成日	平成30年4月23日	評価結果市町村受理日	平成30年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年9月に法人が変わりましたが、介護面は依然の良き所を存続させ認知症対応のグループホームの役割を認識し、ご利用者様のできるレベルに合わせたきめ細かい介護・援助・見守りの現実を目標に、ご利用者様と職員が家族のように過ごせるアットホームなグループホームを目指しています。ご利用者様が疎外感を感じないよう社会福祉協議会のボランティア及びシニアボランティアの来訪、バス旅行もしくはお食事会、季節行事へのご家族様ご参加など、ご利用者様と一緒に楽しんで頂ける環境作りに努力しています。医療面では、訪問医または訪問看護とも連携医の体制を維持し、ご利用者様の緊急時・急変時には、連携医・訪問看護と職員が速やかに連携を取り対応しています。また、地域の歯医者にも訪問して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成26年に東証一部上場の(株)ソラストの傘下に入り、法人理念「人を、社会を元気にし、希望の有る未来作りの為にお客と共に歩む」と事業所理念「利用者に尊厳を持って目配り、気配り、心配りする」に沿って家族や地域の理解と協力を得ながら「利用者」と職員とのアットホームな家族作りに取り組んでいる。利用者一人ひとりの出来る事(残存能力)とやりたい意思を把握し、見守り、必要に応じて援助する、自己決定と生き甲斐を大切に、職員が出過ぎない。職員の育成、研修機会の増加、電子カルテ方式の書式改善にも取り組んでいる。接遇・コミュニケーション技術向上の為に法人の「ウェルフェアコンシェルジュ」資格取得も推奨し、その効果が出つつある。家族の運営推進会議や季節行事等への積極的参加・協力とイベント時のボランティアの協力が多のが当事業所の特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達は人を「元気」にし、社会を「元気」にすることで一人ひとりの生活を豊かにし、希望のある未来作りの為にお客様と共に歩み続けます。事業所としては尊厳を持って「目配り・気配り・心配り」、「報告・連絡・相談」を徹底しています	昨年職員皆で話し合い、* 尊厳を持って「目配り・気配り・心配り」*「報告・連絡・相談」の徹底を事業所理念として作成した。各フロアおよび玄関に掲示すると共に、地域の理解と協力を得ながら、日々その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や敬老会などに参加、地域の消防団の方に年1回消防訓練に参加して頂き交流を深めている	自治会に加入し、地域の敬老会や文化展に出展・参加している。社協登録とシニアプラザ登録のボランティアを数多く受け入れたり、地区消防団員に年1回はホームの消防避難訓練に参加してもらって、地域との交流を図っている。	地域密着型サービス事業所の観点から、地域のより深い理解と協力が絶対不可欠なので、現在やや不十分な自治会や老人会との折衝・関わり・交流を深める事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談員の方やボランティアさんに定期的に来て頂き、入居者様と関わって頂いたり、知って頂く事で、理解を深めたり、支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、取り組み、行事報告、予定等伝えている。質疑応答形式で、そこでの意見も取り入れ、サービス向上に活かしている	原則奇数月(木)、年2回土・日曜日に開催している。入居者の状況・行事等を中心に説明し、それについて参加者との質疑・意見交換を行い、サービス向上に活かしている。しかし、肝心な行政や地域代表等の参加者が少ない。	運営推進会議には行政の代表の出席が必須で、地域包括支援センター職員と、地域代表・知見者として自治会役員・薬剤師・他グループ管理者等の出席を求め、メンバーの拡充と会議の充実を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の開催する研修や会合に参加し、協力関係が築けるように努めている	窓口の指導鑑査課や相談支援課・長寿介護課と地域包括支援センターとは直ぐ近くなので、緊密に連絡を取っている。市が開催する制度改正研修会や毎月の管理者・ケアマネジャーの定例会に積極的に参加して協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、周囲が交通量の多い駅前なので、事故等のリスクが高く開錠は難しい。ストレスを感じないように対応し、説明に努めている	職員は年間研修計画の中で「身体拘束の弊害と拘束の対象となる具体的な言動」を正しく理解して、拘束をしないケアに取り組んでいる。周囲の環境や建物の構造上の問題から、玄関およびフロアドアは施錠しているが、利用者の閉塞感を抱かぬように見守りを重視して、利用者の素振りや表情で外へ同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での研修も行き、理解を深める事で虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修等を行い、職員は理解し、成年後見制度が必要な入居者の方には支援できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の内容について、十分に説明し、理解を得てから契約を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に毎回数名のご家族様に出席して頂いている。年1～2回は休みの日に開催し、様々な要望や意見を伺い、反映させている	利用者の意見・要望は日々の関わりの中で丁寧に聞くように努めている。家族は運営推進会議や訪問時に気軽に話せる関係が出来ている。居室担当者が個々の利用の近況を書き添える「ソラスト通信」とケアマネジャーの届ける12項目に亘る夫々の「身体の状態報告」は家族の安心と信頼に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の常勤ミーティング、各フロアのミーティングにて、運営方針の共有に心掛けると共に、職員の発言の場として意見交換を行い、運営に反映できるように努めている	毎月フロア会議と全体会議を開催して職員の意見・提案を聴取している。管理者と職員とのコミュニケーションは非常に良く、職員は管理者の運営方針を良く理解・共有して、相互信頼関係が築かれている。管理者はケアの方法を初め業務全般の積極的なチャレンジを推奨し、職員の自主性や向上心を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも言える環境作りを心掛け、勤務状況の把握に努め、その評価を報酬に反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加し、スキルアップ出来る体制を築いていけるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じて活用出来そうな取り組みを取り入れ、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や体験入居を通じて、本人の悩みや希望を感じ取るようにして、安心して入居出来るよう努めている。また、入居前からも面談や見学等を通じて、施設の雰囲気を感じる事が出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に自宅や以前の施設に伺い、それまで困難であった事柄等を伺い、汲み取り、環境が変わる事で起こりうる不安などについて安心して頂けるようにしている。入所1ヶ月を目途に、家族様と面談の機会を持ち今後の課題や思いなど相互のすり合わせを行い本人の安定に役立てている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聴き取りやアセスメントを十分に行い、何を優先させることが大切か職員間でカンファレンスを行い、適切な援助を行えるよう努めている。必要と思われる方には主に脚力維持を目的に訪問リハビリサービスを勧める場合もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な家事やレクリエーション等小さなことでも一緒に行う事で、利用者様との一体感、仲間意識を感じ、話しやすい、相談しやすい雰囲気を作り上げられるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の付き添い等、家族様の協力を頂き、また、様々な行事にも家族の参加を仰ぎ、共に本人を支えていく関係を作り上げている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人様の来所が適時あり、また、親族との祝席や弔事、法事などへの参列を含め、これまで培ってきた関係が途切れない様に支援している。また、本人の持てる力を活かし、家族との手紙のやり取りをしている方もいる	毎月訪ねてくる友人を含め、よく訪問してくれる友人・知人が4~5人いる。訪問時は丁寧に応対し、関係が持続するように支援している。家族・親族の訪問も多く、時には馴染みの店に買い物や食事に出かけている。家族の協力を得て、墓参りや法事に出席出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりを大切に居場所を作る工夫を続けている。レクリエーションや家事活動等生活を同じにすることで、自然な仲間意識が持てるように努めている 個性や相性等に配慮し、トラブルにならないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居や長期入院の為、退居された方についても面会や電話等にて様子の確認を行い、職員間で情報共有し、可能であれば助言等していく。亡くなられた方についても連絡を頂き、葬儀への参列等を通じて繋がりを続けていく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等から、ご本人の希望を聴き出し、可能であれば実現出来るよう努めている。 ご家族様やボランティアの方とも協力し、単調な生活にならないよう努めている	フェイスシートやアセスメントシート等からこれまでの生活歴や趣味・特技等を職員皆で共有し、日々の関わりの中でこれからの暮らし方の希望ややりたい事等を把握するように努めている。特に、散歩や入浴等の心身のゆったりした個別ケアの時に率直な意向が聞けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時に1人ひとりの生活歴のバックグラウンドを出来るだけ聞きだし、ライフスタイルを極力崩さないようにしている。また、以前利用していたサービスからも情報の提供を頂くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や1日2回の申し送りなどで、少しの変化でもスタッフで共有できるようにしている。また、申し送りの場以外でも気づきがあれば相談できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向を伺いケアに反映させて頂くとともに3ヶ月に1度のモニタリング、半年に一度のカンファレンス等を活用し、介護計画を立てている	介護記録や診療記録・モニタリング結果・家族の満足状況等を基に、3ヶ月毎に計画作成担当を中心にサービス担当者会議で短期目標見直しの要否を検討し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。状態の変化が生じたら医師に相談し、即見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1度のミーティングで各フロアの入居者様の様子を話し合う他、日々の申し送り等でも気づきを話し合っている。また、不在のスタッフの意見も取り入れるように努め、より良い介護の実現を目指している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリや嚥下の体操等、1人ひとり支援し、利用者様のADLの維持向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やボランティア様によるレクリエーションを活かし、安全に利用者様に楽しんで頂ける機会を提供している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や訪問看護、訪問歯科を通じて、利用者様の体調の維持、不測の事態への備え等行っている	本人・家族の了解の下、現在内科は全員が協力医による月2回の訪問診療を受診している。歯科と訪問リハビリは毎週希望者が受診している。看護師も週2回訪問し、利用者の体調管理と24時間体制で相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調に異変があった際には、24時間体制の訪問看護から指示を受け、適切に対応できるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医師による情報提供に加え、より細かな情緒安定の様子やADL・嚥下の留意点など伝えている。入院中の変化や状態を確認しながら、速やかな退院に向け病院との情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し同意を頂くようにしている。医師よりその旨が伝えられた時には、かかりつけ医・家族・施設職員の話し合いの元で思いを一つにして取り組んでいる。施設開設時より数名の看取り経験がある	契約時に重度化や終末期における事業所の対応指針を説明して同意を得ている。医師が重度化・終末期と判断したら、医師・看護師・家族・事業所で話し合い、方針を共有して、チームとして最善の対応が出来るように取り組んでいる。過去4名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作り、定期的に勉強会を開き再認識を行っている。緊急時の対応方法は、事務所に貼り出し、すぐに確認できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と地域消防団の協力を得て避難訓練を実施している。また、避難経路を変えて消防署管理の下で訓練を実施したり、図面によるシミュレーション訓練を実施している	消防署の指導と地元消防団の協力を得て、夫々1回ずつ年2回の避難訓練を行っている。図面によるシミュレーション訓練も実施している。今後会議の後等にミニ実践訓練の実施を検討している。水・食料品・介護用品等3日分の備蓄は用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にわかりやすい言葉で話しかけ、利用者様の自尊心を傷つけないよう努めている	法人資格「ウエルフェアコンシェルジュ」の取得を推奨し、接遇マナーの研修に力を入れている。利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けと対応をするように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅願望や、不安を持たれている利用者様に関しては、出来るだけ寄り添って傾聴出来るよう心掛けている。発語の少ない方や、内向的な方には積極的に話しかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい個々のペースを優先し、支援できるように努めている。安易な否定の言葉を用いない様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を着てもらおうようにしている。入浴時には洗濯させて頂き、新しい服に着替えて頂くように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度の手作り昼食では、材料の下ごしらえや盛り付け等を一緒に行っている。普段の食事でも盛り付け、配膳、下膳などを手伝って頂いている。共に同じものを食べながら、様々なお話をしながら楽しい食事が出来るようにしている	配食業者からのチルド食を温めて、利用者の状態に合わせて形態を整えて提供している。大半の利用者が盛り付け・配膳・下膳等夫々の出来る事をしている。月1回は利用者の好みの手作り昼食を楽しんでいる。職員も介助しながら同じ物を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じた食事形態で提供している。嚥下状態に合わせてソフト食やミキサー食の提供を行い、必要な方には水分にとろみをつけたりしている。水分量が少ない方に関しては、こまめな水分補給の声掛けを心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践している。自立されている方には声掛け、各種の介助が必要な方には介助を行っている。歯ブラシの使用が難しい方には口腔スポンジを使用する等、個々の口腔状態に配慮している。毎月、訪問歯科によるケアを受ける事で、異常の早期発覚に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレの声掛け、誘導を行っている。排便の有無は自立されている方からは直接報告を受けたり、使用後のトイレの状態から判断しております。オムツを使用している方に関しても、体調等を考慮しながら、出来るだけトイレでの排泄が出来るように努めている	オムツ使用者は4人のみでリハビリパンツ7人、布パンツ7人である。排泄の完全自立者が数名いるが、その他は職員皆が一人ひとりの排泄パターンを把握して、余裕を持って声かけし、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。入所後、自立支援で改善した利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事量や水分量を記録し、排泄状況を把握するように努めている。食前の体操や散歩などを行い運動量を保持するようにしている。また、水分を摂って頂くよう声掛けを行う事で、こまめな水分補給を行い、水分量を確保している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回の入浴を提供している。体調により入浴日を変更したり、入浴の拒否がある時などは時間をずらして声掛けを行うようにしている。入浴の際には、本人の残存能力を考慮した入浴を行うとともに、出来るだけ入浴を楽しめるような環境にしている	基本週2~3回の入浴である。幅広の浴槽の為、安全を期して重度者には2人介助を行なっている。5月の菖蒲湯や冬至のゆず湯で季節感を楽しむ工夫もしている。嫌がる利用者には無理強いせず、時間や曜日・人を代えるなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を積極的に行い、生活のリズムを保ち、夜間安眠できるように努めている。夜間安心して眠れるように声掛けや寄り添いを行っている。日中でも、本人の体調や希望に応じて休息して頂くようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理をしっかりと行い、服薬時には本人の名前、日付けを声を出し確認し誤薬の無い様に努めている。薬の内容は常に確認できるようにファイルに保管し、症状の変化についても、主治医、看護師との連携に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつや手作り昼食、洗濯物干しや畳み、新聞折り、茶葉入れ、食事の盛り付け、テーブル拭き、掃除等出来る事は可能な限り利用者様に手伝って頂く事で生活リハビリとして利用者様への支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気に合わせ、日常は近くを散歩したり、買い物へ出かけている。初詣や花見等へ出かけ、季節感を感じて頂いている。この場合は、家族や地域の肩に協力して頂いている。	ほぼ全員が気候・天気の良い時に、すぐ近くの公園や買い物を兼ねての散歩をしている。元茨木川沿いの桜や若園公園のバラ園・四季折々の花が見られる万博公園等に料金を自分で払っての遠足も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様と一緒に、スーパーやコンビニへ、ドラッグストアへ出掛け、買い物をする事で、本人の好みの把握や気分転換が出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をしたり携帯電話の所持されていたりする。難しい方に関しては、年賀状や暑中見舞いを書いて頂くようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングフロアーに対面式キッチンカウンターが設けられており、コミュニケーションがとりやすくなっている。また、リビング等には季節の飾りつけを施している。過度な刺激や不快感の無い様、落ち着ける空間づくりに努めている	比較的広いリビング兼食堂は明るく清潔感があり、温・湿度管理がされ、居心地良い環境作りが出来ている。対面式キッチンが設置され、利用者とのコミュニケーションが取り易い。リビングや廊下の壁面には、習字やカレンダー・季節の絵等の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアーのソファ周辺やダイニングテーブル等にて、時間を問わずレクリエーションや各種活動を行っている。又、各自居室にて自由にゆっくりと過ごす時間も大事にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具等思い出のある品を置き、また、自身で作られた作品等も飾れるようにしている。帰宅願望が起きる事なく、楽しくゆったりと過ごせるように努めている	居室には、ベッド・エアコン・洗面台・防災カーテンが設置されている。利用者は、使い慣れた小筆筒・テレビ・仏壇・趣味の作品・家族の写真等を持ち込み、従来の生活と変わらず居心地良く暮らせるように工夫支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の入退院後等、その時々ADLの変化に合わせて様々な工夫をし、安全、安心、安楽の為の工夫をすることで、利用者様の自立を支えている。トイレ、浴室等も解りやすく表示し、「理解して頂く」の一助にしている		